

南の風 178

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

177号の続きです。大塚氏の引用を続けます。

■「“プレイヤーズ”ファースト」の真の意味

可愛さ余って。もしかしたらこれはサッカーに限らず、どんなことにもあることなのかもしれません。過保護になってしまったり、逆に過剰に厳しくしてしまったり……。子どもたちを主役にサポートする」とよく言いますが、適切な力加減は案外難しいものです。

その時に思い出すべき言葉が「プレイヤーズファースト」です。プレイヤーズ=選手、ファースト=第一に。サッカーにおいては、ピッチの中でプレーする選手が第一であり、最も尊重されるべきです。「選手第一主義」はプロサッカーにも通じるメッセージです。子どもたちのサッカーで「プレイヤーズファースト」が重要なにはもうひとつ理由があります。「プレイヤーズファースト」は「チルドレンファースト」ではありません。「子どもが主役」ではなく、あくまでサッカー「選手」が主役なのです。子どもはサッカーボールを蹴り始めた瞬間から「選手」として尊重される存在になります。サッカー選手は紳士としてルールを守り、フェアプレーを遵守し、仲間と力を合わせてプレーします。サッカー選手は自ら考えてプレーし、試合中は自己の責任でチャレンジを繰り返し、試合終了の瞬間まで諦めません。これは多くの親から見ても、たとえプロ選手になれなくても、「サッカーを続けてよかった」と思える理由になるのではないのでしょうか。指導者の立場でも細かい注意を与えなくても「こんな時サッカー選手ならどうする？」と子どもに示してあげれば、自ずと子どもたちの行動も変わってくるはずですよ。

子どもは信頼を寄せられたときに、自ら考えて行動し自立し始めるのだといいます。

サッカーを通じて子どもを選手として尊重してあげることができれば、子どもが成長する環境作りの「はじめの一步」は成功です。

■今日の一勝より人生の勝利を目指して

子どもたちを選手として尊重し、そのプレーのための環境作り、周囲の大人ができるサポートを考えていくことこそが「プレイヤーズファースト」の真の意味です。これを指針に行動すれば、「子どもたちのために」を隠れ蓑にした「実は自分のため」の行動も見えてくるはずですよ。

ヨーロッパサッカー連盟(UEFA)の技術委員長を長く務めたアンディ・ロクスブルクさんは、育成に関してこんな言葉を残しています。

「私たちは、選手の未来に触れている」

子どもたちが成長したときに「サッカーをやっていてよかった」「サッカーを続けたい」と思うプレー環境とはどんなものなのか？ 目先の勝利、今日の一勝ではなく、5年後、10年後、そして人生の勝利を勝ち取るために、いま何ができるのか。

(以上引用でした。)次に大塚氏は、大人が子どもたちに認める「5つの自由」について述べています。今回は、その5つの自由について紹介したいと思います。また、「叱る」「褒める」についても大塚氏は心理学の側面からアプローチしています。それでは次号にします。